

## 戦中の中国の写真を展示

東京  
華北地方で国策会社撮影  
—京大人文研が保管

南満洲鉄道（満鉄）の流れをくみ、日中戦争中の1930年代後半、日本が占領した中国華北地方で設立された国策会社「華北交通」が当時、グラフィック制作などのために現地で撮影した写真の展覧会が、東京・半蔵門にある日本カメラ財団（JCII）のフォトサロンで25日まで開かれている。入場無料。

展示は、北京の学校の授業風景、道路工事、理髪業など人々の暮らしや産業を写した写真を中心に160点以上。「苦力輸送 天津」などのキャプションが付いて残っていた写真、旧陸軍の検閲で公開不許可になったとされる写真も展示する。

近年、同社の写真が京大人文学研究所に保管されていたことが分かり、同財団と京大などの研究者らのグループが約3万5千枚の写真やほぼ同数のネガの調査、研究を進めている。



㊦「苦力輸送 天津／1940年4月」などのキャプションが付いて残っていた写真

㊧「華北交通扶輪学校の授業時間 北京／1939年9月」などのキャプションが付いて残っていた写真  
(いずれも日本カメラ財団提供)

写真は同社が発行していた日本語グラフィック「北支」への掲載などの目的で撮影されたとされる。満鉄の北支事務局として天津で発足した37年から、日本の敗戦で事実上解体される45年にかけて撮影されたものが残っているという。

京大に保管された経緯の詳細は不明で、その存在は少数の関係者しか知らなかったという。

日本カメラ財団の白山真理調査研究部長は「華北交通は国策に従って広報・宣伝活動をしていた。日中戦争・太平洋戦争当時の日本の宣伝活動の在り方の一端が分かる史料だ」と話している。



展示会の会場で説明する日本カメラ財団の白山真理調査研究部長＝11月29日、東京・半蔵門のJCIIフォトサロン

## 文化メモ

論叢社講座 25日午後2

時、京都市左京区岩倉中在 ったんだ」と題してコンサ  
地町の論叢社。僧侶でシン ートを開く。千円。論叢社  
カーソングライターの鈴木 075(711)033  
君代さんが「私は私でよか 4。